

生駒北小中一貫校保護者説明会

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成 25 年 5 月 12 日(日) 15:00~16:30
- 2 開催場所 生駒北小学校体育館
- 3 出席者 約 100 名
- 4 回答者 小柳奈良教育大学教職大学院教授、十文字生駒北小学校長、本田生駒北中学校長
峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、吉村教育指導課課長補佐
- 5 開会あいさつ (峯島部長)

6 小中一貫校設置について (伊東課長)

教育長が以前説明したように、小中一貫校になっても小学校 6 年間と中学校 3 年間という区切りは変わらず、小学校課程終了時の卒業式や中学校の入学式はこれまで通り行う。学校名は小学校は生駒北小学校、中学校は生駒北中学校のままである。小中合わせた通称名をつける場合もある。

教育課程は学習指導要領どおりであるため、転入生や普賢寺小学校の子どもたちが不利益を受けることはない。しかしながら、特色ある学校づくりはどの学校でも行う必要があり、小中一貫校になっても同様である。先生方が話し合い、高山という地域の特色や特性を生かした教育活動を引き続き行い、特色ある学校づくりを行っていく。

クラスの数が減ると教職員定数が減り、音楽など専科の教員を置けない。つまり学級担任は一人ですべての教科を指導しなくてはならず、空き時間がないので教材研究もできなくなるだろう。しかし、小中一貫校では校長を 1 名にし、子どもの指導に直接かかわる教員を 1 名増やすことができる。そうすれば教職員の負担も軽くなる。

また、同じ敷地内で小中学校の教員が交流できると、自分の指導が今後どのようにつながるのか、自分の教えたことはそれまでどのような指導があったからなのかが分かってくる。このような教員の資質の向上は子どもの学力の向上につながる。

生駒北小と北中の小中一貫校は施設一体型となる。小中学校の校舎が離れている連携型の小中一貫校に比べ、教育効果が高いと言われているのが施設一体型である。新しいものに積極的に取り組んでいかなくてはと考えているので、保護者の皆さんからの声を十分に聞きたいと思う。

7 質疑応答

- 保護者 : いじめにあった者はいくつになってもそのつらい経験を思い出すらしい。いじめを予防するためにも市の権限で1学年を2クラスにする方がいいのではないかと。2クラスにできないならば、市は他にどんな対策を考えているのか具体的に教えてほしい。
- 市教委 : 生駒市では1クラスの定員を小学校1年生で30人、2年生は35人としている。予算の問題もあり、ひとつの学校だけ定員に満たないのに2クラスにするわけにはいかない。小中一貫校になれば、小学校時代のことを十分に知った教職員が中学校の先生に引き継ぎ、中学校卒業まで見守ることができる。よって、いじめにもより適切に対応できると考えている。
- 学校長 : 先ほど「校長を一人にして子どもに関わる教職員を一人増やす」と課長が言われたが、これは学校現場としては非常にありがたいことだ。
- 小柳教授 : クラスを2つに分けて少人数学級編制にすればいじめが減るというデータは見たことがない。校舎を作る費用で教員を増やした方がいいと思われがちだが、教員を増やすことにかかる人件費は永遠に続く。そして、この教員を増やすことは高山だけのことではなく、生駒市全体で考えることになる。それにかかる経費等シミュレーションしてみる必要はないだろうか？
- 保護者 : 懇話会の内容が伝わってこない。また、育友会が実施したアンケート調査はWeb上で公開してほしい。
- 市教委 : 懇話会は今まで3回開催し、その様子を「懇話会だより」にまとめ、北小と北中の保護者全員に、また自治会には回覧版でお知らせしている。生駒市のホームページでも公開しているので見てほしい。
- 保護者 : 2クラスにすると1クラスあたりの人数が少なくなり、クラス内のグループの数も減る。そうすると気が合わないのに嫌でもそのグループに入っていなければならない、苦痛を感じる子も出るだろう。
- 学校長 : 本年度の北中の修学旅行に付き添ったが、人数が少ない集団であるためグループ分け等とても心配だった。しかし、先生方の行き届いた指導で、生徒たちにとって心に残るものになった。
- 保護者 : 私の周りで小中一貫校について反対だという意見は聞いていない。今後、保護者はどのように関わっていけばいいのか。
- 小柳教授 : 学校運営協議会を作って保護者が学校教育に関わっているところがある。協議会でなく評議会を設置している学校もある。小中一貫校のPTAは小学校と中学校に分かれてはおらず、一緒になっている場合がある。小学生の保護者は中学校のことがよく分かるし、役割分担や全体の調整がしやすい。また、企画を立てるにも小学校と中学校で重なることがない。しかし役員は、他の学校が小学校中学校で分かれてPTAを組織しているので、市で集まりがある時はそれぞれに出る必要があり、負担が大きくなることも聞いている。
- 保護者 : 小中一貫校に反対ではないが不安だ。なぜなら市の説明に具体性がない。カリキュラムはこうなる、など具体的に示してほしい。
- 保護者 : 小中一貫校になっても活動するクラブの数が増えたりクラス数が増えたりはしない。小中一貫校設置以外の手立てを考えてはいるのか。
- 市教委 : 小中一貫教育は教育効果が高いと言われている。生駒北小・北中地区では小中一貫教育を行うこ

とにより、子どもたちの学力向上などが期待できると考えている。

市教委：小中一貫校になれば小学校5・6年生が中学生とともに部活動を行い、また、小学校教職員も中学校の部活動の指導を援助できる。

地域住民：小中一貫校の設置に期待している。小中一貫校があるからこの地区に住みたいと言われる地区にしたい。そのためには保護者が「こんな学校にしたい」と要望し、それを先生とともに考え、教育委員会に伝えることが必要ではないかと思う。

保護者：現状維持か小中一貫校か、小柳先生や生駒北小学校、生駒北中学校の校長先生はどう考えるか。

小柳教授：立場を越えて（懇話会座長という立場から述べているではなく）、個人の考え方で言えば、小中一貫校設立にチャレンジしたほうがいいと思う。異学年交流が盛んに行われることにより、子ども一人ひとりの良さが出てくるだろう。それから他の小中一貫校と連携し、新しい取組を公開し合うことが大事だ。そうすることで新しい取組がより良いものになっていく。

学校長：教員の資質が上がればそれが子どもに返ってくる。小中一貫校には賛成だ。

学校長：奈良県一の立派な施設を作ってもらい、小中一貫教育を進めたい。

地域住民：小中一貫教育の成果をもっと聞きたかった。

高山幼稚園の建て替えがあるので、小中一貫教育懇話会としての結論を出す期限は10月末だと懇話会だよりに書いてあった。わずか8カ月で結論を出せるのか。

市教委：小中一貫教育はこの地域に最適な教育だという事で提案した。高山幼稚園の耐震性が低いことが心配なので、結論をまとめる時期を10月末に設定したが、市としては懇話会が出る保護者や地域の意見を尊重する。懇話会は決定機関ではない。

小柳教授：8か月が長いかわかりはわからない。話の内容や深まり具合によると思う。懇話会は推進委員会ではない。しかし皆さんの意見を集め考える時、ある程度の舵取りはしなければならないだろう。

保護者：この地域は調整地域なので人口はこれ以上増えることはない。そうなる小中一貫校しか方法はないと考えている。講演会では小中一貫校のいい面しか話していないが、富雄第三小中学校の保護者は「先生方は与えられた課題で精一杯になっていて、子どものことまで手が回らない。」と言っていた。小中一貫校を成功させるために必要なのは先生の指導力だ。指導力のある先生を呼んでほしい。

市教委：教育熱心で意欲のある人材を配置したい。

地域住民：小柳先生は講演の中で私たちに「みんなで協議しなさい」と投げかけられた。意見の内容からは保護者の意見の高まりを感じる。子どもが減ると子ども同士の人間関係が薄くなることを心配する声が多いので、少子化を防ぐことと小中一貫教育を進めることを同時に考えてほしい。

8 事務連絡（事務局）

次回の保護者説明会は、6月5日（水）19:00~21:00に生駒北小学校多目的室で開催する。

議事録を市ホームページの教育指導課のページに掲載する。

9 閉会あいさつ（峯島部長）